



39th Annual Concert

# SOVIET GLORIA WIND ORCHESTRA

創価グロリア吹奏楽団  
第39回定期演奏会

6/14 <sup>2026</sup> (日) 16:00開演  
(15:00開場)

東京芸術劇場 コンサートホール  
Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

## ごあいさつ Greetings & Profiles

本日はご多忙のところ、創価グローリア吹奏楽団 第39回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。本公演を通じて、聴いてくださった皆さまの希望や活力になれば、これ以上の喜びはございません。

私たち創価学会音楽隊は、聴いてくださる方に感動と喜びを、そして勇気と希望を感じていただくことを使命として活動しており、音楽をはじめとした文化活動は、民衆と民衆をつなぎ、平和に結びつくことを確信しております。

本日は伊藤康英先生、松下倫士先生、塩屋龍也先生、3名の指揮者を迎え、唄をコンセプトに、そして平和への想いを根底に託したプログラムを用意いたしました。

第2部では伊藤康英先生のアレンジによる「展覧会の絵」を披露させていただきます。ピアノ、サクソフーンカルテット、合唱が入った大編成アレンジになっており、今までの概念を覆すような「展覧会の絵」をお楽しみいただければ幸いです。



本日も来場くださった皆さま、応援くださる皆さまに心より御礼を申し上げますとともに、当団に渾身の指導をしてくださっている小澤俊朗先生をはじめ講師の先生方、本日の公演にお力を貸していただきましたゲストの皆さま方に感謝を申し上げ、末筆ながらご挨拶とさせていただきます。

本日は最後まで、ごゆっくりとお楽しみください。



## 創価グローリア吹奏楽団 SOKA Gloria Wind Orchestra

創価学会音楽隊の中央楽団として、「音楽隊第一吹奏楽団」の名称で発足。1980年に「創価学会東京吹奏楽団」と改称。1997年に第45回全日本吹奏楽コンクール(主催:全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社)に出場を果たし、金賞を受賞。同年11月に「創価グローリア吹奏楽団」に改称する。昨年2025年に至るまで、全日本吹奏楽コンクールにて通算18度の金賞を受賞している。

定期演奏会やファミリーコンサートの開催、イベントへの出演やレコーディングなど広範な活動を続けており、東日本大震災の被災地支援の活動として、2011年5月には千葉県旭市で「復興応援コンサート」、2013年4月には福島県南相馬市にて「福光の春コンサート」を開催。2014年からは、さらなる継続

的な活動として「希望の絆コンサート」を、岩手県(大船渡市・釜石市・宮古市・盛岡市)、福島県(福島市・須賀川市)、宮城県(多賀城市・石巻市・名取市・富谷市・仙台市・栗原市・大崎市・黒川郡大和町・大郷町)にて開催。2018年に熊本地震の復興支援活動として、熊本県(熊本市・宇土市・菊池郡菊陽町)で開催。2024年8月には能登半島地震の復興支援活動として、石川県金沢市で開催。

また2025年12月には初の試みとして、南海トラフ巨大地震の被害が想定される静岡県・沼津市にて、地域の防災訓練を兼ねた希望の絆コンサートを開催。

楽団員は、首都圏に在住する青年世代メンバーで構成されている。

## 指揮 伊藤 康英 Yasuhide Ito



作曲家。交響詩《ぐるりよぎ》、オペラ《ミスター・シンデレラ》《ある水筒の物語》、ピアノ連弾曲集『ぐるぐるピアノ』シリーズ、歌曲編曲集『コンサートで映える』シリーズ(4冊)、『童謡・唱歌の素敵なピアノ伴奏』、『吹奏楽作品 世界遺産100』(共著)、『メトード・ソルフェージュ』(共著)などで知られる。音楽之友

社やイトーミュージックにて出版。

吹奏楽の分野では、東京佼成ウインドオーケストラなど国内外の多くの吹奏楽団を指揮。海外のコンクール審査員も務める。創価大学パイオニア吹奏楽団、創価グロリア吹奏楽団を指揮しての全日本吹奏楽コンクールでの演奏は話題を呼んだ。1996年度、2026年度の吹奏楽コンクール課題曲を作曲。洗足学園音楽大学にて20年近く行ってきた吹奏

楽コンクール課題曲クリニックは、多くのバンドの指針となっている。また、ピアニストとして特に声楽の伴奏者として活躍、音楽教科書の執筆も行う。

東京藝術大学音楽学部作曲科、同大学院修了ののち、同大学非常勤講師を20年以上務めた。また、くらしき作陽大学(オペラマイスタークラス・コレパティータル)、桐朋学園大学の非常勤講師を務め、現在は、洗足学園音楽大学、常葉大学短期大学部音楽科、静岡大学(ピアノとウェルビーイング研究所)各客員教授、尚美ミュージックカレッジ コンセルヴァトリアル ディプロマ科非常勤講師。

日本音楽コンクール作曲部門入賞、クードヴァン国際吹奏楽作曲コンクール入賞、静岡県音楽コンクール・ピアノ部門優勝、奏楽堂日本歌曲コンクール優秀共演者賞。日本管打・吹奏楽学会アカデミー賞を二度受賞。全日本高校選抜吹奏楽大会委員。浜松市出身。浜松ゆかりの芸術家顕彰。浜松市やらまいか大使。《浜松市歌》《伊達市歌》作曲家。

公式ホームページ: [itomusic.com](http://itomusic.com)

## 指揮 松下 倫士 Tomohito Matsushita



東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、2009年同大学院修士課程作曲専攻修了。卒業時に藝大同声会賞受賞。2014年東京音楽大学大学院修士課程伴奏科修了。

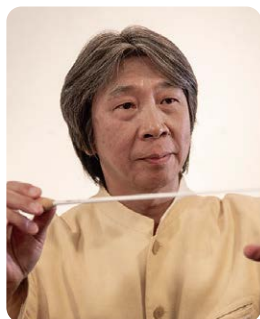
これまでに日本交響楽振興財団第29回作曲賞、第5回北本ピアノコンクール大学院生・一般部門第1位、併せて全部門

より最優秀賞受賞。東京フィルハーモニー交響楽団とラヴェルのピアノ協奏曲を共演。第22回宝塚ベガ音楽コンクールピアノ部門第2位、2012年奏楽堂日本歌曲コンクール第19回

作曲部門(一般部門)入選、第51回JBA下谷賞など多数受賞。また2023年よんでん芸術文化奨励賞、2025年第17回とくしま芸術文化奨励賞受賞。

作曲家として、吹奏楽やアンサンブル作品が全国各地で演奏され注目を集めているほか、近年は声楽や合唱曲も作曲しており、カワイ出版より歌曲集や合唱組曲などが出版されている。ピアニストとしては、2012年に日本コロムビアより「僕が僕であるために〜尾崎豊 オン・ピアノ」(編曲・演奏)をリリース。2014年には「夢見草〜松下倫士ピアノソロアルバム〜」をリリース。ソロだけではなく数多くの演奏家と共演も多く、高い信頼と評価を得ている。またCDも多数リリースされている。洗足学園音楽大学、東京音楽大学非常勤講師。

## 指揮 塩屋 龍也 Tatsuya Shioya



桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。トランペットを小林高彦、戸部豊、田宮堅二の各氏に師事。東京文化会館推薦音楽会オーディション合格。新人演奏家デビューコンサートに出演。宮崎女子高等学校(現宮崎学園高等学校)音楽科教諭として7年勤務。後、活動の場を海外に移し、演奏者及び指揮者として各種音楽祭に参加する。1991年7月、ウィーン国立音楽大学指揮科教授エーストライヒャ氏のもとで指揮法を学ぶ。同年、スイス、ローザンヌにて、ホーカン・ハーデンベルガー氏の国際トランペットセミナーにてディプロマを取得。

1995年、7月ニューヨーク州サラトガスプリングス音楽祭(同州文部省主催)のゲストコンダクターとして招待され、

ストリングオーケストラを中心に指導し、数回のコンサートを指揮し好評を博す。音楽祭期間中、総合芸術監督 Russell Stanger氏とフィラデルフィア管弦楽団首席奏者と共に、青少年のための音楽教育プロジェクトに参加。タンゲルウッド奨学生の選考委員も務める。1997年、帰国。現在、国際芸術文化交流を目的とした『Akademeia』を仲間と共に主宰。“美しき星の物語”コンサートシリーズでは、絵本作家「葉祥明の世界」海洋生物学者「レイチェル・カーソンの世界」幻の童謡詩人「金子みすゞの世界」を中心にオリジナル音楽ともに舞台芸術として総合プロデュースしている。また、国内外の著名な写真家による“ドキュメンタリーフォトフェスティバル宮崎”に音楽家として参加。

音楽や文学など、分野を超えて創り上げるステージを通し限りない優しさや平和であることの大切さを伝える活動を続けている。

## ピアノ 松本 望 Nozomi Matsumoto



北海道出身。東京藝術大学大学院修士課程作曲専攻修了。パリ国立高等音楽院ピアノ伴奏科首席卒業。2007年第4回リヨン国際室内楽コンクール、2009年第55回マリア・カナルス国際音楽コンクール・ピアノトリオ部門でそれぞれ第1位受賞。

在学中より作曲と演奏の両分野で活動を展開し、2003年東京文化会館主催合唱作品作曲コンクール最優秀賞、受賞作品をはじめ自作曲集、編曲集等の出版多数。2015年度及び2022年度のNHK全国学校音楽(合唱)コンクールの課題曲の作曲者。演奏ではアンサンブルを中心に活動、国内外のアーティストと共演を重ねるほか、CDレコーディング等に多数参加。東京藝術大学弦楽科伴奏助手を経て、現在、国立音楽大学、洗足学園音楽大学、各非常勤講師。

## ピアノ 加藤 大樹 Daiki Kato



昭和音楽大学卒業、同大学院修了後、渡独。令和元年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修員及びDAAD(ドイツ学術交流会)奨学生としてミュンヘン音楽大学マイスタークラスを最優秀の成績で修了。

現在、東京藝術大学、昭和音楽大学、創価大学にて非常勤講師を務める。

第48回パルマ・ドーロ国際ピアノコンクール第1位及びドンツドルフ賞受賞。第17回浜松国際ピアノアカデミーコンクール第1位。第7回東京音楽コンクールにおいて審査員満場一致の第1位及び聴衆賞を受賞。第9回パデレフスキ国際ピアノコンクール第3位及びビドゴシュチ市長特別賞(古典ソナタ最優秀演奏賞)。第5回ハリーナ・チェルニー＝ステファンスカ記念国際ピアノコンクール第3位など数々のコンクールで優勝・入賞の実績を持つ。

これまでに小林研一郎、大友直人、飯森範親、梅田俊明、小泉和裕、円光寺雅彦、高関健、現田茂夫、渡邊一正、岩村力、内藤彰、田中祐子、松井慶太、Marek Pijarowski、Tadeusz Strugała、Gabriel Laufer各氏指揮のもと、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京ニューシティ管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、札幌交響楽団、広島交響楽団、セントラル愛知交響楽団、パデレフスキ・フィルハーモニー交響楽団、スデッカ・フィルハーモニー交響楽団、インドネシア国立交響楽団など国内外有数のオーケストラとの共演を重ねるほか、近年では室内楽の分野でも活躍の場を広げる。

2016、17年度ロームミュージックファンデーション奨学生。これまでに江口文子、アンティ・シーララ、エイドリアン・エティカーの各氏に師事。

公式ホームページ: [daikikato.com](http://daikikato.com)

## ピアノ 寺元 嘉宏 Yoshihiro Teramoto



5歳よりピアノを始め、都立立川高等学校を経て、桐朋学園大学音楽学部に入學。同大学音楽学部および研究科修了。卒業時に調律師協会や、読売新聞主催等の各種新人演奏会に出演。2011年より渡独し、ベルリン芸術大学にて研鑽を積む。優秀な成績で同大学Diplom課程を卒業し、文化庁新進芸術

家海外派遣制度研修生としてドイツへ派遣され2017年ドイツ国家演奏家資格(Konzertexamen)を現地で取得した。

これまでに第59回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会第3位。第14回日本クラシック音楽コンクール高校の部最高位。第2回横浜国際音楽コンクールグランプリ、第4回東京芸術センター記念ピアノコンクール銀賞のほか多摩フレッシュコンサート、やちよ音楽コンクール他受賞。

日本各地やドイツでのリサイタルを多数行い、オーケストラのソリストとして、室内楽奏者として、教育者としても幅広く精力的に活動している。在ドイツ日本大使館での演奏会「若手音楽家の夕べ」などにも招かれている他、別府アルゲリッチ音楽祭にてクラリネット奏者であるポール・メイエへのマスタークラスへ伴奏者として招聘されたほか、東京FM、NHKラジオ、信州放送等のメディアにも出演している。またサントリーホール主催のレインボウ21から選出されて、同ホールにて行われる演奏会の企画・立案を担当するなど演奏会運営も手掛けている。近年はピアノ教育にも従事しており、これまでに数々の国内外コンクールにて入賞者を輩出している。これまでに森知英、青柳晋、中井恒仁、P.ドゥヴァイヨン、村田理夏子の各氏に師事。

元東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校ピアノ科非常勤講師、元東京音楽大学ピアノ科非常勤講師、現国立音楽大学附属中学校・高等学校専任教諭。

サクソフォーン クローバー・サクソフォーン・クワルテット Clover Saxophone Quartet



2005年、東京藝術大学の同窓生で結成。従来のサクソフォーンのイメージを変えてしまうその響きは、クラシカル・サクソフォーン音楽の新たな幕開けとなる。2007年5月に東京文化会館にてリサイタル・デビュー。以降これまでに東京文化会館、紀尾井ホール、浜離宮朝日ホール等で定期的にリサイタルを開催。いずれも大成功をおさめる。2012年の

定期公演では、東京文化会館にて、バッハのゴールドベルク変奏曲を全曲演奏し大好評を得る。2009年、NHKFMリサイタル出演。キングレコードからCD「クローバー」「プレシャス」「ゴルトベルク変奏曲」をリリース。「プレシャス」はレコード芸術誌において特選盤に選ばれている。2025年9月、浜離宮朝日ホールにて20周年リサイタルを開催。



合唱指導 相澤 直人  
Naoto Aizawa

指揮者、作曲家。全日本合唱連盟常務理事、東京都合唱連盟副理事長、日本合唱指揮者協会理事を務める傍ら、東京藝術大学および洗足学園音楽大学にて後進の指導にあたっている。

指揮者としては、あい混声合唱団や女声合唱団ゆめの缶詰を率い、コンクール全国大会金賞や海外入賞など国内外で高く評価されている。“曲が喜ぶ演奏”を信条とし、多くの委嘱初演においても厚い信頼を集める。

また作曲家として300を超える作品を発表。音楽教科書の著者として学校教育に携わるほか、メディア協力や若手育成など、合唱文化を社会へひらく活動にも精力的に取り組んでいる。



司会 金野 恵子  
Keiko Konno

文学座附属演劇研究所(20期)、俳協演劇研究所(10期)を卒業後、主に舞台を中心に活動。

女たちの忠臣蔵(帝国劇場)、雪国(芸術座)、こまつ座「雨」(紀伊国屋ホール他)、冬の蝶(名鉄ホール)、ブルーストッキングの女たち(本多劇場他)、はなれ瞽女おりん(俳優座

劇場他)等。

その後、声優、ナレーターとしても活動。

洋画の吹替では、

- ◎ゴースト ニューヨークの幻(デミ・ムーア)
  - ◎テキーラ・サンライズ(ミシェル・ファイファー)
  - ◎L.A.コンフィデンシャル(キム・ベイシングー)
- 等が代表作。

洗足学園音楽大学非常勤講師(声優アニメソングコース)として若手の教育にも携わる。



## 第1部

指揮：塩屋 龍也

Tatsuya Shioya

### 交響詩「フィンランディア」作品26の7

Symphonic poem "Finlandia", op.26 No.7

作曲：J.シベリウス  
Jean Sibelius

### カンタベリー・コラール

Canterbury Chorale

作曲：J.ヴァン=デル=ロースト  
Jan Van der Roost

指揮：松下 倫士

Tomohito Matsushita

### ルクス・アウルムクェ（黄金の光）

Lux Aurumque (Light of Gold)

作曲：E.ウイテカー  
Eric Whitacre

### ル・シャン・ドウ・ラムール・エ・ドウ・ラ・プリエール（愛と祈りの歌）

Le chant de l'amour et de la prière (Song of Love and Prayer)

作曲：松下 倫士  
Tomohito Matsushita

—休憩—

## 第2部

指揮：伊藤 康英

Yasuhide Ito

### 展覧会の絵

二台八手ピアノ、サクソフォーン四重奏、混声合唱と吹奏楽のための交響的カンタータ  
シラー、ゲーテ、ミュラー、カエサル、プロペルティウス、サルスティウス、ウェルギリウス、  
杜甫、李白、尹東柱と伊藤の詞による

Bilder einer Ausstellung

Symphonic Cantata for Two Pianos Eight Hands, Saxophone Quartet, Mixed Chorus and Band

words by F. Schiller, J. W. Goethe, W. Müller, Caesar, Propertius, C. Sallustius, P. Vergilius,  
Du Fu, Li Bai, Yun Dong-ju and Y. Ito

作曲：M.P.ムソルグスキー  
編曲：伊藤 康英

Modest Petrovich Mussorgsky / arr. Yasuhide Ito



## 交響詩「フィンランディア」作品26の7

ジャン・シベリウス(1865～1957)の交響詩《フィンランディア》は、1899年に作曲されたフィンランドの民族的覚醒と独立への強い意志を象徴する不朽の名作です。当時フィンランドは、ロシア帝国の過酷な圧政下であり、民衆による抵抗運動が高まっておりました。このような歴史的背景の中で誕生した本作は、後に「フィンランド第二の国歌」と称されるほど、国民にとって特別な存在となります。

楽曲は、重々しく緊張感に満ちた金管楽器の序奏で幕を開けます。これは抑圧された時代の不安や怒りを生々しく描き出しています。やがて音楽は激しく躍動し始め、祖国への情熱と自由を勝ち取ろうとする闘争のエネルギーが表現されていきます。その愛国心あふれる壮麗な響きは、当時、当局によって演奏禁止処分を受けることもありました。人々は曲名を変えてまで各地で演奏を続け、互いを鼓舞し続けたのです。

特に印象的なのは、中間部で現れる静謐で美しい旋律です。後に「フィンランディア讃歌」として独立した合唱曲にもなったこのメロディは、フィンランドの豊かな自然と、人々の心にある希望や祈りを象徴しているかのようです。最後は再び力強さを取り戻し、輝かしい勝利を予感させるクライマックスへと至ります。

フィンランドの民衆はこの曲に自由への願いを託し、ついに1917年に独立を成し遂げました。民衆が自由と尊厳、そして平和を求めた歴史と思いを、グロリアサウンドを通して感じていただければ幸いです。

(黒田 大翔)

## カンタベリー・コラール

現代吹奏楽を担う作曲家の一人、ヤン・ヴァン＝デル＝ロースト(1956～)は、吹奏楽レパートリーの発展に大きく寄与してきた作曲家であり、その作品は世界50か国以上で演奏されています。自身の音楽活動も5大陸・40か国以上におよび、国際的な評価を確立し、マーチの代表作《アルセナル》の作曲者としても知られ、日本においても広く親しまれている存在となっております。

《カンタベリー・コラール》は編成を増減させながら、その都度、使用楽器の組み合わせを変えることで、教会音楽らしい神聖さと穏やかさを保ち、音量と音色に明確なコントラストが生み出されています。もともと1990年にブラスバンドのために作曲された作品であり、1993年に作曲者自身によって吹奏楽編成へと改編されました。

変ホ長調の美しい主和音の響きから始まる冒頭のイングリッシュホルンによって提示される旋律は、極めて内省的かつ祈念的な性格を帯びており、その後、音色の変容を伴いながら各楽器群へと受け継がれていきます。この過程は、大聖堂へと歩みを進めていく情景を象徴的に描写していると解釈できます。

中間部において現れるコラール風の主題は、和声的厚みと音響的拡がりを伴い、荘厳なパイプオルガンの響きを想起させますが、実際にカンタベリー大聖堂にはパイプオルガンが備えられており、本作における構成は、その音響体験を理想化・象徴化したものと考えられます。

ぜひ教会にあるパイプオルガンを想像しながらお聴きください。

(野村 博正)



## ルクス・アウルムクエ(黄金の光)

ラテン語で「黄金の光」と訳されるこの作品は、2000年にアメリカの作曲家、エリック・ウィテカー(1970～)によって作曲された合唱曲です。もともとはエドワード・エッシュによる英語詩「光と黄金」を基に、チャールズ・アンソニー・シルヴェストリがラテン語に翻訳し、それにウィテカーが作曲することで成立したという背景を持っています。

歌詞は「光が温かく、純金のように輝き、天使たちが生まれたばかりの子(イエス)のために歌う」という、イエス・キリストの誕生を祝う内容となっています。そのため、クリスマスの時期に広く歌われており、キングス・カレッジ合唱団によるクリスマス・イヴの礼拝でも取り上げられたことがあります。

この曲の大きな特徴は、ウィテカー特有のクワスター和音やパンダイアトニック等といった密集した和声の響きにあります。これにより、光が乱反射するような透明感のある音響と、繊細で静謐な空間が生み出されていくことが特徴的です。また、明確なリズムよりも音の流れや響きの変化が重視されており、時間がゆったりと漂うような浮遊感を感じさせる点も魅力となっています。

このように、《ルクス・アウルムクエ》は単なる旋律の美しさにとどまらず、音の重なりそのものによって光を描き出す作品であり、まさに「音で光を表現する音楽」といえるでしょう。

(三丈 翔太郎)

## ル・シャン・ドウ・ラムール・エ・ドウ・ラ・プリエール(愛と祈りの歌)

この作品は精華高等学校吹奏楽部の委嘱作品として2018年に作曲し、同年に初演されました。それまでは「土蜘蛛伝説」や「繚乱」など能や物語に基づいて作曲することが多かったのですが、この作品は題名の通り、愛について表現をしました。愛といっても様々な愛があると思いますが、愛する人を想う気持ち、そして苦悩や葛藤といった様々な心の変化、そして祈りを音で表現しています。

作品の構成としては大きく4つの場面に分かれており、美しいメロディとハーモニーが特徴的で愛情に満ちた第一部、怒りや苦しみなど自分との葛藤を表現した第二部、そしてガラッと雰囲気が変わり愛する人に対する感謝の気持ちや祈りを表現した第三部、そしてフィナーレは様々な想いが交錯し激しい音楽となってクライマックスを迎えます。

本日は創価グロリア吹奏楽団と一緒にこの作品を演奏することができ、大変嬉しく思います。音で表現する愛と祈りの世界をお楽しみください。

(作曲家: 松下 倫士)



### 展覧会の絵

創価グロリア吹奏楽団は、これまでたびたび私の作品を取り上げてくださり、中でも、同団委嘱による序曲《平和と栄光》(2001)は、21世紀の初めに作曲した大切な作品です。新しい世紀が平和な時代でありますように、そんな願いを込めて書いた作品です。

一昨年と昨年には、定期演奏会や吹奏楽コンクールでの指揮の機会をいただき、一緒に音楽を作ったのは、まことに光栄なことでした。

そして本日、どうしてもこの超大編成の作品を取り上げたく、それを快く引き受けてくださったのは、大きな喜びであるだけでなく、今この時代だからこそ特別な意味を持つように思われます。

ムソルグスキー(1839~81)のこの作品は、もともとはピアノ曲として作曲され、ラヴェルの管弦楽編曲により広く知られるところとなりました。

2005年、私は吹奏楽編曲を依頼されました。ところがその編成たるや、合唱などを含む大規模なものでした。合唱には歌詞が必要です。そこで、戦争と平和に関する詩、さらには多くの示唆を含んだ言葉を集め、人間の傲慢さや、平和に至る祈りを、ムソルグスキーの音楽に乗せることにしました。

ベートーヴェンの《第九交響曲》で知られるシラーの詩、さらにはドイツ文学を代表するゲーテの詩、またラテン語には、時を超えて生き続ける数々の言葉があります。中国の古い五言絶句にも、現代に通じる普遍的な響きがあります。さらに、第二次世界大戦末期の日本で若くして獄死した尹 東柱(ユン・トンジュ)の韓国語の詩は、韓国ではあまねく知られる詩です。なお、尹は本日の会場からほど近い立教大学に留学していた時期もありました。

それらの言葉を集めて編んだこの作品は、「ムソルグスキーの展覧会の絵」という体裁そのままを保ちつつも、言葉の重みを通して、全く異なる世界を描きます。

ベートーヴェンが《第九交響曲》で用いたのは、シラーの詩「歓喜に寄す」からの抜粋でした。ベートーヴェンが採用しなかった言葉、たとえば「Unser Schuldbuch sei vernichtet. Ausgesöhnt die ganze Welt!(私たちの罪の記録は消し去られよう。全世界は和解しよう)」は、この作品全体に深い意味を与えます。また、ベートーヴェンが用いた「Seit umschlungen, Millionen! Diesen Kuss der ganzen Welt!(抱き合おうよ、みんな! この口付けを全世界に!)」という言葉があります。これを〈キエフ(キーウ)の大門〉のメロディに乗せて高らかに合唱することは、今、情勢が不安定なキーウに、新たな大きな門が開かれることへの願いにも重なるように思います。

ムソルグスキーの音楽には、粗削りとも言える無骨さがあります。奇抜な音の使い方、奇妙な響きさえきこえます。それらは、ロシアの大地の力強い声や、ムソルグスキー自身の姿を映し出しているようです。その音楽に、時代や国境を超えた言葉を重ね合わせる。いまなお争いの絶えない世界にあって、この作品が、平和への願いをあらためて見つめるひとときとなれば幸いです。

よろこびによせて [キエフ(キーウ)の大門] より



(作曲家:伊藤 康英)



● 世界はひとつではないのです  
Promenade I

地球はひとつ ひとつの地球  
われらの地球 われらの世界 [ドイツ語／ラテン語]  
だから 世界もひとつに  
全世界は和解しよう [ドイツ語]  
地球はたったひとつ  
世界もひとつであれ！

Unsre Erde - Unsre Welt [ドイツ語]  
terra nostra - mundus noster [ラテン語]

Ausgesöhnt die ganze Welt!  
シラー『歓喜に寄す』より／ドイツ語  
F. Schiller (1759-1805) / An die Freude

● いにしへのローマのいくさびとは、こう言った  
原題：小人（グノーム）Gnomus

〔男声〕  
賽は投げられた。  
〔混声〕  
人間は、自分が信じたいことを喜んで信じるものだ。  
  
我来たり、見たり、勝ちたり

\*カエサルの言葉より／ラテン語  
C. Iulius Caesar (100 BC-44 BC)

iacta alea est.  
プルタルコス『ポンペイウス伝』60より  
Πλούταρχος (c.46-after 100) / Bios Pompeioui  
libenter homines id quod volunt credunt  
『ガリア戦記』第三巻18  
Commentarii de Bello Gallico  
veni, vidi, vici.

● いにしへの唐の詩人は、こう歌った  
Promenade 2

〔男声〕  
国は壊され、ここにあるのは山河のみ。  
春の都に、生い茂るのは草木だけ。  
戦乱の世に心を痛め、花を見ても涙を流す。  
家族との別れの辛さに、鳥の声にも心おびえ。  
〔混声〕  
戦火は続く、すでに三月。  
宝に思える家族の手紙。  
霜置く髪は薄くなり、  
冠留めの簪さえも、もう挿せなくて。

\*杜甫(712-770)『春望』／中国語

国破山河在  
城春草木深  
感時花濺淚  
恨別鳥驚心  
  
烽火連三月  
家書抵萬金  
白頭搔更短  
渾欲不勝簪

● つはものどもがゆめのあと  
原題：古城 Il vecchio castello

〔男声〕  
国が壊され、ここにあるのは山河のみ。

国破山河在



● この世に神がないのなら  
Promenade 3

この世に神がないのなら、  
われらこそが神なのだ！

神だって？

\*ミュラー『冬の旅』より／ドイツ語  
W. Müller (1794-1827) / Winterreise

Will kein Gott auf Erden sein,  
sind wir selber Götter!

● こどもたちのけんか

原題：テュイルリーの庭 - 遊びの後の子供たちの口げんか  
Tuileries – Dispute d'enfants après jeux

● わたしたちの命は、小さな輪

原題：ピドロ（牛車）Bydło

〔男声〕

神々と力を競ってはならない。  
もし人が高くのぼり  
星々に触れたとしても  
足元はおぼつかず  
雲や風にもてあそばれる

〔混声〕

何が神と人とを分けるのか。  
神々の前では、時間の流れがただ通り過ぎていく  
しかし私たちは  
その流れの中に巻き込まれ  
浮かび、沈みながら生きている。

わたしたちの命は小さな輪  
多くの世代が連なりあい  
果てしない鎖を形作る

\*ゲーテ『人間性の限界』より／ドイツ語  
J. W. Goethe (1749-1832)  
Grenzen der Menschheit

Denn mit Göttern  
Soll sich nicht messen  
Irgend ein Mensch.  
Hebt er sich aufwärts  
Und berührt  
Mit dem Scheitel die Sterne,  
Nirgends haften dann  
Die unsichern Sohlen,  
Und mit ihm spielen  
Wolken und Winde.

Was unterscheidet  
Götter von Menschen?  
Dass viele Wellen  
Vor jenen wandeln,  
Ein ewiger Strom:  
Uns hebt die Welle,  
Verschlingt die Welle,  
Und wir versinken.

Ein kleiner Ring  
Begrenzt unser Leben,  
Und viele Geschlechter  
Reihen sich dauernd  
An ihres Daseins  
Unendliche Kette.

● いにしへの唐の女の歌  
Promenade 4

〔ソプラノ独唱〕

都を照らす月ひとひら。  
家々の砧打つ音ひびき。  
秋風は吹いても尽きず。  
そぞろ思いは出征の夫へ。  
いつ戦いが鎮まって、  
遠征を終えて帰ってくるのか。

\*李白(701-762)『子夜呉歌』／中国語

長安一片月  
萬戸擣衣聲  
秋風吹不盡  
總是玉關情  
何日平胡虜  
良人罷遠征



● 殻つき雛鳥のバレエ

原題：卵の殻をつけた雛の踊り

Ballet des poussins dans leurs coques

● 金持ちと貧乏人

原題：サムエル・ゴールドンベルクとシュムイレ

Samuel Goldenberg und Schmuyle

\*プロペルティウス『エレゲイア』第三卷

13.49／ラテン語

Sex. Propertius (48BC-AD16) / elegia

黄金は信を碎き、黄金は法を売り、  
黄金は法を追い、やがて羞恥は法を失う。

auro pulsa fides, auro venalia iura,  
aurum lex sequitur, mox sine lege pudor.

● 人間よ、善良であれ

Promenade 5

\*ゲーテ『神性』／ドイツ語

J. W. Goethe (1749-1832) / Göttliche

けだかい人間よ、  
助けとなり、善良であれ。  
倦むことなく働き、  
有益なことを、正しいことを成し、  
われらの規範であれ、  
かの予感される存在たちの。

Der edle Mensch  
Sei hilfreich und gut!  
Unermüdet schaff er  
Das Nützliche, Rechte,  
Sei uns ein Vorbild  
Jener geahneten Wesen!

● 市場の雑踏

原題：リモージュの市場 Limoges – Le marché

● ローマの墓より

原題：カタコンベ - ローマ時代の墓

Catacombae – Sepulchrum Romanum

\*カエサル『内乱記』第一卷 21／ラテン語

C. Iulius Caesar (100 BC-44 BC)

Commentarii de Bello Civili

(男声) 戦争では、小さなきっかけによって  
(混声) 大きな変転が起きるものだ。

In bello parvis momentis  
magni casus intercederent.

● 死者のことばより

原題：死せる言葉による死者への呼びかけ

Cum mortuis in lingua mortua

(女声)

(男声)

戦争はたやすく始められるが、終結は難しい。

(女声)

どんな臆病者にも始められるが、

(男声)

終えるのは、勝者が望む時だけだ。

(ソプラノ独唱)

愛はすべてに勝つ。さればわれらも従おう、愛に。

\*サルスティウス『ユグルタ戦記』83.1／ラテン語

C. Sallustius Crispus (86 BC-35 BC)

Bellum Iugurthinum

Omne bellum sumi facile, ceterum  
aegerrime desinere;  
incipere cuivis etiam ignavo licere, deponi,  
cum victores velint.

\*ウェルギリウス『牧歌』第十番 69／ラテン語

P. Vergilius Maro (70 BC-19 BC) / Eclogae

Omnia vincit Amor et nos cedamus Amori.



● 風と星と

原題：鶏の足の上に建つ小屋 - パーバ・ヤガー

La cabane sur de pattes de poule - Baba-Yaga

星を歌う心で、  
すべて死んでゆくものを愛さなくては。  
そして私に与えられた道を、  
歩いてゆかなくては。

\*尹 東柱『序詩』より／韓国語  
윤 동주 (ユン・トンジュ) (1917-45) / 서시

별을 노래하는 마음으로  
모든 죽어 가는 것을 사랑해야지  
그리고 나한테 주어진 길을  
걸어가야겠다.

● よろこびによせて

原題：キエフ（キーウ）の大門 La grande porte de Kiev

偉業を遂げた者たちよ、  
真の友となれた者、  
優しい伴侶を得た者たちよ、  
共にあげようよろこびの声！

〔混声合唱+サクソフーン〕

そうだ、心を分かち合える人が  
この地球上にたったひとりでもいる者たちよ！

\*シラー『歓喜に寄す』より／ドイツ語  
F. Schiller (1759-1805) / An die Freude

Wem der große Wurf gelungen,  
Eines Freundes Freund zu sein,  
Wer ein holdes Weib errungen,  
Mische seinen Jubel ein!

Ja – wer auch nur Eine Seele  
S e i n nennt auf dem Erdenrund!

悲しく貧しい人たちよ  
よろこびのうちに楽しもう  
怒りも復讐も忘れよう  
不倶戴天の敵も許そう

〔混声合唱+サクソフーン〕

大きな地球の輪に住むものは  
敬意を払い共感しあう

Gram und Armut soll sich melden,  
Mit den Frohen sich erfreuen.  
Groll und Rache sei vergessen,  
Unserm Todfeind sei verziehn,

Was den großen Ring bewohnt  
Huldige der Sympathie!

抱き合おうよ、みんな！  
この口づけを全世界に！  
わだかまりを水に流し、  
全世界は和解しよう！

Seid umschlungen Millionen!  
Diesen Kuss der ganzen Welt!  
Unser Schuldbuch sei vernichtet,  
Ausgesöhnt die ganze Welt!

世界はひとつ！！

今回のプログラム掲載のための伊藤による新訳です。若干の解釈の相違についてはご容赦ください。

# 創価グローリア吹奏楽団 2025年度の活動

## 2025

4/6 (日) 駒込駅北口 染井吉野桜記念公園  
第23回 駒込染井よしの桜まつり



4/29 (火祝) 文京シビックホール  
創価グローリア吹奏楽団  
第38回 定期演奏会



金賞 代表  
8/3 (日) 西新井文化ホール  
第65回 東京都職場・一般吹奏楽コンクール

5/25 (日) 足立区立第十四中学校  
令和7年度 初心者のための吹奏楽講習会

金賞 代表  
9/20 (土) 府中の森芸術劇場  
第65回 東京都吹奏楽コンクール



10/26 (日) リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館  
第73回 全日本吹奏楽コンクール

金賞





11/9 (日) かめありリリオホール

第49回 東京都職場・一般アンサンブルコンテスト

金賞 代表 サクソフォーン4重奏

金賞 代表 金管8重奏 銀賞 打楽器6重奏



2026

2/8 (日) 府中の森芸術劇場

第49回 東京都アンサンブルコンテスト

金賞 代表 サクソフォーン4重奏

金賞 金管8重奏

2/22 (日) 新宿妙音会館

春コン! ファミリーコンサート

3/21 (土) 広島文化学園HBGホール

第49回 全日本アンサンブルコンテスト

金賞 サクソフォーン4重奏



12/6 (土)~7 (日) 静岡県伊豆の国市、沼津市  
希望の絆コンサート

